



月刊宮司プレス第二百二十八号

彦島八幡宮 宮司ニユース
発行者 彦島八幡宮
宮司 柴田 宜夫
発行 令和七年 五月二十一日

◇宮司の柴田です。 お待たせしました、月刊宮司プレス第二百二十八号の発行です。 過

日の五月十八日は、福浦金刀比羅宮の例祭を御奉仕申し上げました。 階段が二百七十段あります。 段数を数えながら登ると、

「金毘羅狐」が現れて邪魔をするので、登りきると、必ずしも二百七十段にならない、数え間違いをするという言い伝えがあります。 しかしながら、多分、息が切れてしまい、正確に数えられないというのが本当のところではないでしょうか。 それも

そのはず、地元の方は、傾き、いわゆる、パーミルが日本一と自負されています。

例祭ですから、正服を着装しなければなりませんので、大荷物でした。 裏参道も

あるのですが、正面突破してこそ「金毘羅

さんの御利益」と果敢に登るのですが、

加齢と共に、軽やかに登ることが困難にな

ってきたことを感じます。 昔は、富観台

と称えられていまして、風光明媚なところ

でもあります。 今回も、若戸大橋を見る

ことができました。 吉田松陰先生も

海防調査で参詣されておられます。 もち

ろん、松陰先生がご覧になった景色とは違いますが、往時をしのぶことができるところに、歴史のロマンを感じます。



◇文政十三年に、長府の忌宮神社の

境内社の御分霊をお祀りしてより百九十

六年祭でした。 福浦金刀比羅宮の御祭神

は、大物主神と崇徳上皇です。 崇徳上

皇は、保元元年（西暦一、一五六年）の保

元の乱に敗れられて、讃岐の国に流されて

しまわれました。 その後、崇徳上皇は、

崩御される、お隠れになるまでの二年間、

讃岐の金刀比羅宮にお籠りになられたそ

うです。 そのようなことから、讃岐の金

刀比羅宮の御祭神に配されたのです。 実

は、彦島を開拓した先祖である河野通次も、

藤原頼長と共に、崇徳上皇の御味方とし

て後白河天皇側との戦いに敗れ、彦島に隠

れ住んだと云われています。 福浦金刀比

羅宮に崇徳上皇が祀られているところに

も、歴史の必然を感じずにはいられません。

ちなみに、最近読んだ、伊東潤氏著作の

「悪佐府の女」に、保元の乱が書かれ、もちろん崇徳上皇や藤原頼長の暗躍も描かれています。

◇私共の「まほろば」である彦島も、少子高齢社会になりつつあります。しかしながら、「小さな社会で豊かに暮らす」ことを大目標に創意工夫をされたのが、私共の御先祖様です。ひとつひとつの地域のお祭りを厳修し、さらに、歴史伝統文化を継承することも、「豊かに暮らす」手立てであるうかと思えます。これからもしっかりと、つとめてまいります。御自愛ください。

◇五月の祭典行事報告（予定も含む）

▼境内春の様子



▼月次祭 *五月一日、五月十五日

▼貴布禰神社月次祭 *五月一日

▼塩釜神社例祭 *五月三日



▼六連島観音堂地鎮祭 *五月十一日

▼福浦金刀比羅宮例祭 *五月十八日



▼朝粥会 *五月二十一日

◇五月宮司動静（予定も含む）

▼神社関係団体

◆早起会参拝 *五月一日

◆奉賛会役員会 *五月二十四日

◆敬神婦人会総会 *五月二十五日

▼神社庁関係

◆初任神職研修会講義 *五月二日

◆神社庁正副庁長会議 *五月九日

◆神社庁教化委員会 *五月九日

◆下関支部聞く会 *五月十六日

◆熊南神社総代会総会 *五月二十日

◆祭典後講話研修会

*五月二十八日～二十九日

◆神社庁役員会 *五月二十九日

◆山口県八幡宮会役員会

*五月三十日

▼教誨活動（美祿社会復帰促進センター）

◆集合教誨女子 *五月十二日

◆集合教誨男子 *五月二十六日

▼講演活動

◆熊南神社総代会総会にて講演

*五月二十日

▼自治会、学校関係、人権相談員、その他

◆玄洋中学校CS *五月二日

◆山口県人権男女共同参画委員会

*五月十四日

◆彦島まちづくり協議会総会

*五月十五日

◆自治会役員会 *五月二十二日

◆下関市人権男女共同参画部会

*五月二十六日